



設計施工資料

共通施工資料	19 ~ 20
標準施工法(新築)	21 ~ 30
標準施工法(重ね葺き)	31 ~ 43
参考資料	44

安全上の注意事項

アルマを安全にご使用いただくため、施工前に必ずお読みいただき、正しくご使用ください。

なお、この商品は専門施工が必要ですので、工事は必ず屋根専門工事業者様にご依頼ください。

また、アルマを屋根材以外の用途には使用しないでください。

アルマは、住宅などの屋根材として十分満足していただける品質を備えておりますが、耐久性や耐候性などの諸機能は、正しい施工（標準施工）を行うことによってはじめて発揮されるものです。

よって、必ず正しい施工（標準施工）を実施していただくようお願いいたします。



警告 死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 落下事故の危険性がありますので、強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
- 高所作業は関係法規に従って行ってください。
- 金属部材は電線などに触れないように取り扱い、施工してください。感電のおそれがあります。
- 高所や基準を超える積雪のある地域など、アルマの使用可能地域外での使用は製品不具合や施工上の危険をまねくおそれがありますので避けてください。
- 雨や雪、露などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。滑り落ちる可能性があります。
- 屋根施工後は役物の上に乗らないでください。また、屋根材の上の歩行は極力控え、やむを得ず歩行する際は慎重な歩行を心掛けてください。
- 屋根面にはむやみに端材、工具など、物を置かないでください。滑り落ち、怪我や器物破損のおそれがあります。
- 固定していない屋根材、役物などの上には絶対に乗らないでください。滑り落ちる可能性があります。

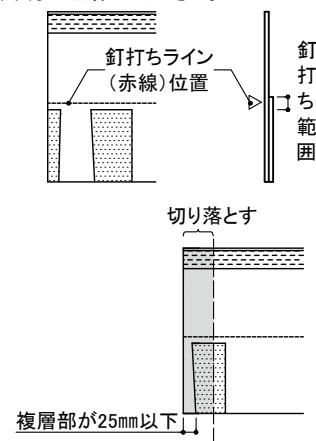


注意 使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損傷の発生が想定されます。

- 建築基準法、消防法、建築用途、施工地域に適合した使用をしてください。
- 動きやすい服装、滑りにくい履物など、作業に適したものを着用してください。
- 作業の際は、ヘルメット、滑り止め付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
- 工事期間中、毎日の作業終了後には、屋根面を清掃してください。
- 電動工具などをご使用の際は各工具の取扱説明書に従って正しくご使用ください。また、その配線などは漏電しないものを使用してください。
- 梱包部材、残材などは産業廃棄物として処分してください。
- 屋根面に足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。
- はしごをかける場合は、当て木を使い、かつ滑らないように固定してください。また、作業は必ず2人で行ってください。
- 釘打ちの振動でアルマが滑り落ちるおそれがありますので、十分注意してください。
- 作業中、足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。破損などが生じ、雨漏りなど不具合の原因となります。

本体施工上の注意事項

- 施工前、製品本体ウラ面（足先側）にセルフシーラントが確実に付いていることをご確認ください。セルフシーラントが付いていないと突風などによりアルマ本体が飛散するおそれがあります。なお、セルフシーラントが接着能力を発揮するまでの期間は季節により異なります。アルマ用シングルセメント(品番:SAC1500)を必ず併用して施工を行ってください。また、10寸を超える急勾配屋根ではアルマ本体の自重がかかりにくくなり、セルフシーラントが十分に接着しない場合がございます。施工の際はアルマ用シングルセメント(SAC1500)を所定位置に塗布(必要に応じて増し打ち)のうえ、十分に圧着してください。
- アルマ施工の際、釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部分に行います。製品上部カットなどで、やむを得ず釘打ちライン以外の場所に釘打ちする際は、製品の複層部分に釘打ちしてください。釘頭があらわしになる部分はシングルセメント処理となります。
- アルマ製品複層部の幅が25mm以下となる場合、当該部分は経年で剥がれやすくなるため、本体施工時にあらかじめ当該部分を含む製品端部を切り落として施工します。製品本体には製造上、最初から端部において複層部分の幅が非常に小さいものが含まれている場合がございますが、ご了承願います。
- アルマ本体割り付け上、小幅材が出る場合は幅を150mm以上としてください。なお、製品が自着するまでのバタつきを考慮し、幅300mm以上とすることをおすすめします。
- 夏場、屋根面が60℃を超える環境下では施工後の屋根材面の歩行は極力控えてください。アルマ表面が踏みズレをおこすおそれがあります。やむを得ず歩行する際は歩み板を敷くなどの措置を講じ、踏みズレには十分留意してください。
- 冬場、外気温が5℃以下となる場合は、原則アルマの施工を控えてください。製品のうねり(波うち)、ひび割れの原因となります。やむを得ず低温時に施工する際は、日なたなどでアルマを温め、製品が屋根面に馴染むようになってから施工してください。
- 開梱後、アルマ本体裏面のセルフシーラントを下にした状態での仮置きは避けてください。セルフシーラントが熱により屋根面に溶着するおそれがあります。
- 雨天後の施工は、事前に屋根下地の状態を確認し、濡れている場合は施工しないでください。施工する場合は、必ず十分に乾燥した状態で施工を行ってください。



アルマの製品特性について

- アルマはアスファルトを原材料のひとつとしているため、夏期は柔らかく、冬期は硬くなる性質があります。特に冬期施工時には屋根形状に馴染むまでに若干時間がかかる場合がございますので、あらかじめご了承願います。
- アルマの石落ちについて
本製品では製品表面の粒状石が落下する現象が見られますが、これはアスファルトシングル特有の現象です。粒状石の落下は製品異常ではございません。また、粒状石は天然石に着色されたものであり、有害物質は含まれておりません。

保管上の注意

- 倉庫、現場での保管は必ずパレットに載せて保管してください。
- 倉庫での保管は、パレット(64ケース/パレット)は2段以下としてください。
- 現場での保管は、高さ1m以下で保管してください。
- 本体やセルフシーラントは、濡れると接着しなくなるおそれがありますので、雨が掛からない場所に保管するか、養生シートで覆ってください。
- 梱包したままで折り曲げないでください。本体が割れるおそれがあります。また、棟などにまたいで置いたままにしないでください。

設計施工基準

設計施工基準

- 建物の高さは16m以下とします。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では専用の施工方法（1枚あたり6本留め）にて行います。
- 結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。
- 屋根勾配は原則3.5寸以上、27.5寸（約70度）以下とします。
緩勾配（2.5寸以上3.5寸未満）の場合は、下表の専用施工仕様に従ってください。
- 流れ長さは20m以下とします。
緩勾配（2.5寸以上3.5寸未満）の場合は、流れ長さ10m以下とします。
- 多雪地域（垂直積雪量がおよそ80cmを超える地域）においては、勾配は3.5寸以上（27.5寸以下）とし、下表の多雪地域専用の施工仕様に従ってください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

		勾配	緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10以上
			2.5/10	3.0/10					
一般地域	最大流れ長さ	10m以下			20m以下				
	下葺材施工	防水強化仕様			一般施工仕様				
多雪地域	最大流れ長さ	施工不可			10m以下	15m以下		20m以下	
	下葺材施工				防水強化仕様				

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P23~24)をご参照ください。

下地基準

垂木	サイズ: 45mm × 45mm以上 間隔: 500mm以下
野地板	普通合板 (JAS規格1類) 厚み12mm以上 構造用合板 (JAS規格特類、1類) 厚み12mm以上 OSB (JIS A 5908) 厚み12mm以上 野地板は屋根材の重量、屋根の施工者や雪の荷重などで破壊、変形、ゆがみが生じないものを選定し、たわみや不陸、釘の浮き、隙間のないように施工してください。

注) アルマはセメント系野地板、鉄筋コンクリート下地にはご使用いただけません。

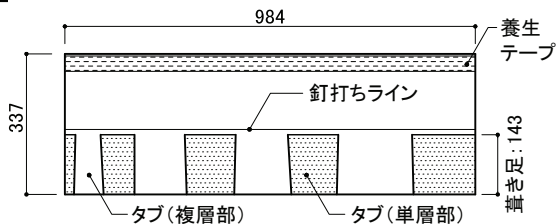
防耐火認定について

- アルマは国土交通省大臣認定（屋根飛び火認定）を取得しております。
飛び火認定番号 DR-1875(1)
（認定構造方法の名称）
砂付ガラス繊維入アスファルト系シート・アスファルト系ルーフィング・野地板〔木質系ボード又はセメント板〕表張／
支持部材〔木製又は鋼製〕屋根

製品仕様

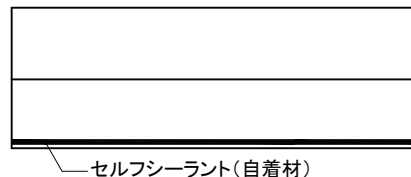
■アルマ本体

アルマ本体(オモテ面)



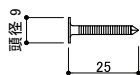
品番	SA30□ (口内は色番号)
寸法 (厚み×幅×長さ)	6mm×337mm×984mm (単層部 厚み3mm)
葺き足	143mm

アルマ本体(ウラ面)



m ² あたり葺き枚数	約7枚
梱包	16枚/梱
重量	約1.7kg/枚
梱包重量	約27kg

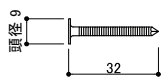
■アルマ用シングル釘(アルマ本体 手打ち施工用)



φ3mm×25mm
ステンレス製

品番	SAK100
梱包	約630本(1kg)/箱
箱あたり施工枚数	約150枚(一般地域施工)

■アルマ用連結釘(アルマ本体 機械打ち施工用)

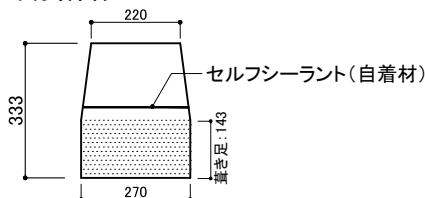


φ3mm×32mm
ワイヤ連結
ステンレス製

品番	SAR100
梱包	30巻/梱(120本/巻)
巻あたり施工枚数	約30枚(一般地域施工)
梱包あたり施工枚数	約900枚(一般地域施工)

注)連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

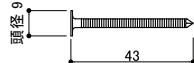
■アルマ同質棟材



品番	SAH21□ (口内は色番号)
寸法(厚み×幅×長さ)	3mm×270mm×333mm
葺き足	143mm
梱包	30枚/梱
梱包あたり施工長さ	約4.3m

注)アルマ同質棟材の対応勾配は10寸(45度)以下です。

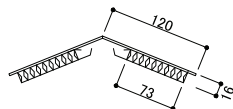
■アルマ同質棟材用シングル釘(アルマ同質棟材 手打ち施工用)



φ3mm×43mm
ステンレス製

品番	SAK110
梱包	約100本(約250g)/袋
袋あたり施工枚数	約25枚(同質棟材施工)

■アルマ同質棟材用棟換気部材

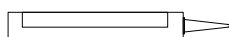


L=910mm
材質:ポリプロピレン
片面プチルテープ同梱

品番	SAF100
梱包	2本/梱
有効開口面積	156.5cm ² /本(172cm ² /m)
対応勾配	3.5寸~8.0寸

注)隅棟にはご使用いただけません。

■アルマ用シングルセメント



330ml
カートリッジ

品番	SAC1500
梱包	10本/梱
本あたり施工面積	約6m ² (葺き面積)
梱包あたり施工面積	約60m ² (葺き面積)

注)アルマ用シングルセメントはアルマ施工の際には必ず使用します。

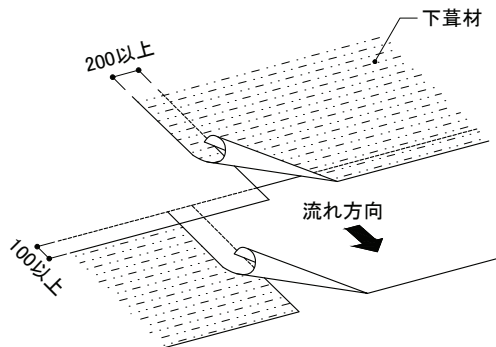
アルマ本体施工に際して、直径20~30mmの点づけ、使用部位により幅5~10mmのビード状に塗布します。
シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますのでご注意ください。

下葺材の施工(一般施工仕様)

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

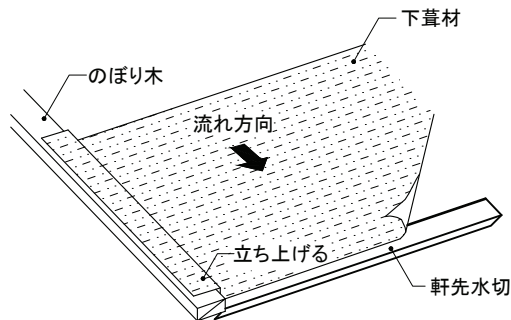
下葺材はアスファルトルーフィング940 (JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング(ゴムアス)を使用します。

一般部



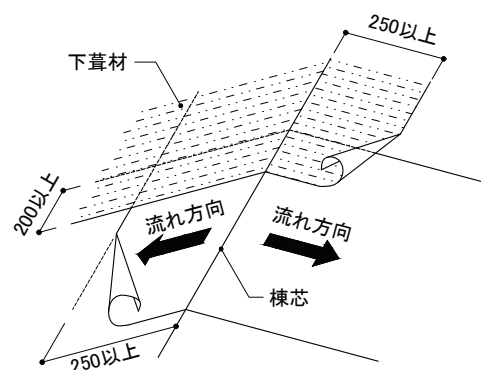
- 重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。

軒先・けらば部



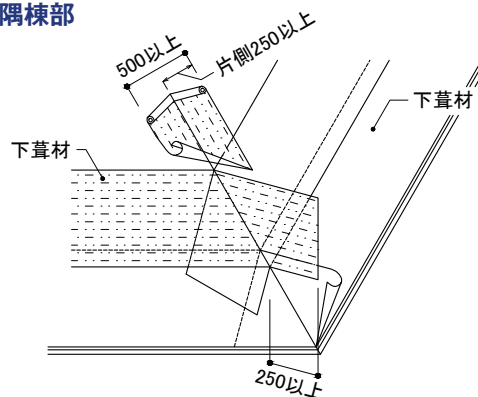
- 軒先部は、軒先水切の半分程度まで下葺材をかぶせます。
- けらば部はのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。

大棟部



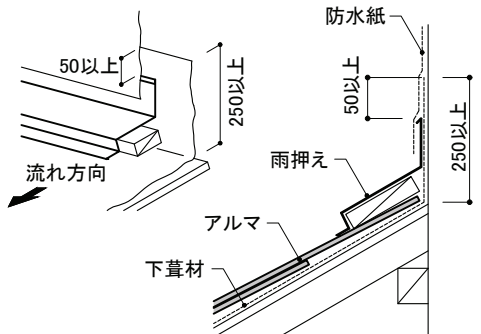
- 大棟部は、片側250mm以上(計500mm以上)重ねます。

隅棟部



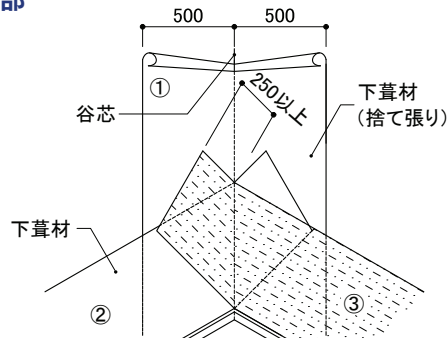
- 隅棟部は、下葺材を隅棟芯より250mm以上敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。

壁際部



- 壁際部は、250mm以上(雨押え板金の上端より50mm以上)立ち上げます。

谷部

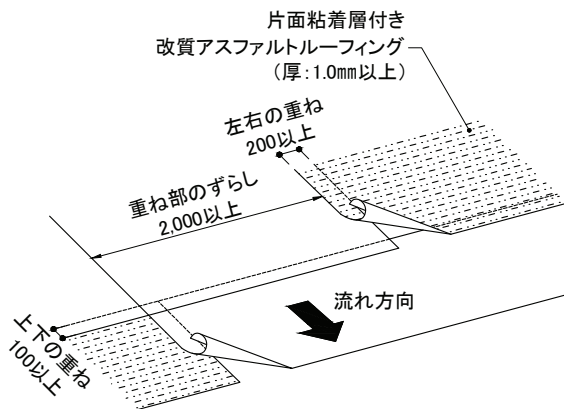


- 谷部は、
①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、
②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。
(図中の○数字は、施工の順番を表しています。)

下葺材の施工(防水強化仕様)

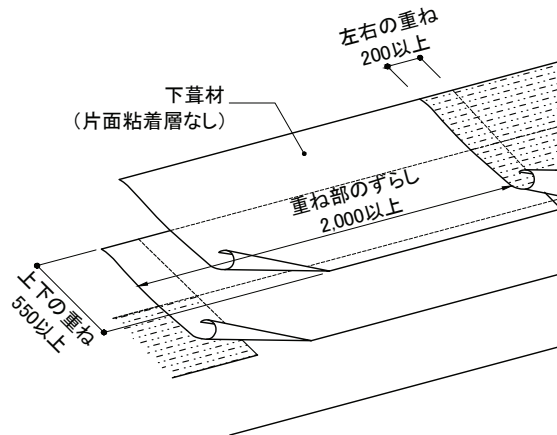
※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

重ねしろ (下葺材：片面粘着層あり)



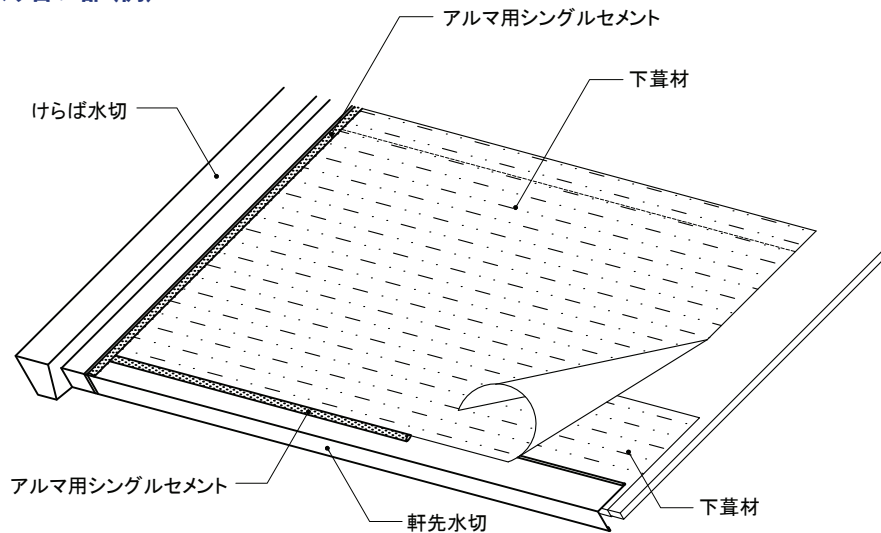
- 重ねしろは、縦方向100mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2,000mm以上ずらします。

重ねしろ (下葺材：片面粘着層なし)



- 重ねしろは、縦方向550mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2,000mm以上ずらします。

板金取り合い部(例)



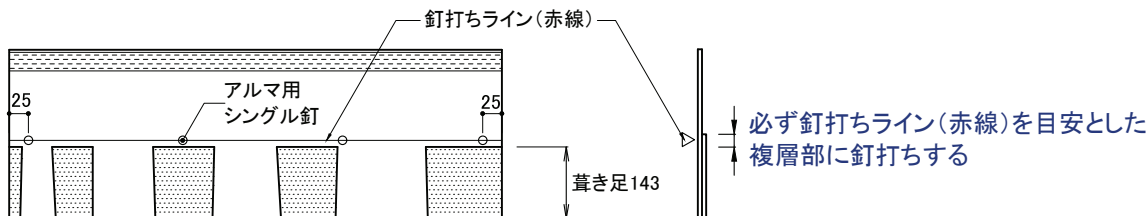
- 下葺材と水切部材との取り合い部には、アルマ用シングルセメント(SAC1500)をビード状に塗布します。
- 上図(けらば水切、軒先水切)のほか、谷板金、捨て水切などの水切部材と下葺材の取り合い部も同様にアルマ用シングルセメントをビード状に塗布します。
- 軒先水切施工前に、野地板を巻き込むように下葺材を施工します。

■施工上の注意事項

- 流れ長さは10m以下とします。
 - 下葺材はアスファルトルーフィング940、改質アスファルトルーフィング、片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングをご使用ください。
 - 棟換気部材などを設置する場合は、各換気部材メーカーの設置仕様に従ってください。
- ※本施工仕様は一般施工仕様(一般地域勾配3.5寸以上)と異なりますので、ご注意ください。

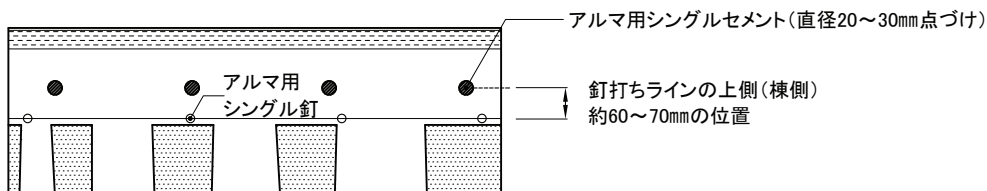
本体施工のポイント

アルマ本体の釘打ち



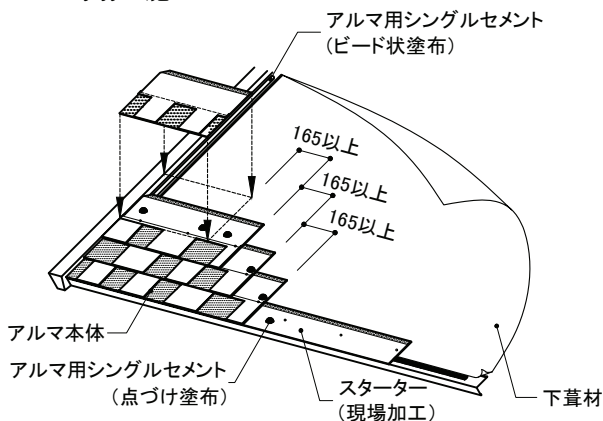
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

アルマ用シングルセメントの塗布

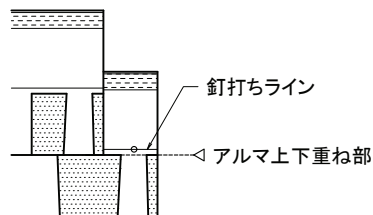


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置にアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大きさと点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでピード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

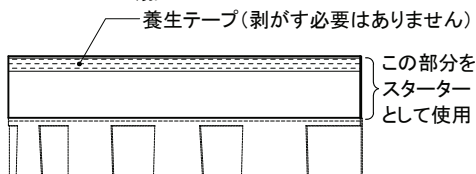
アルマ本体の施工



- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。



スターターの加工

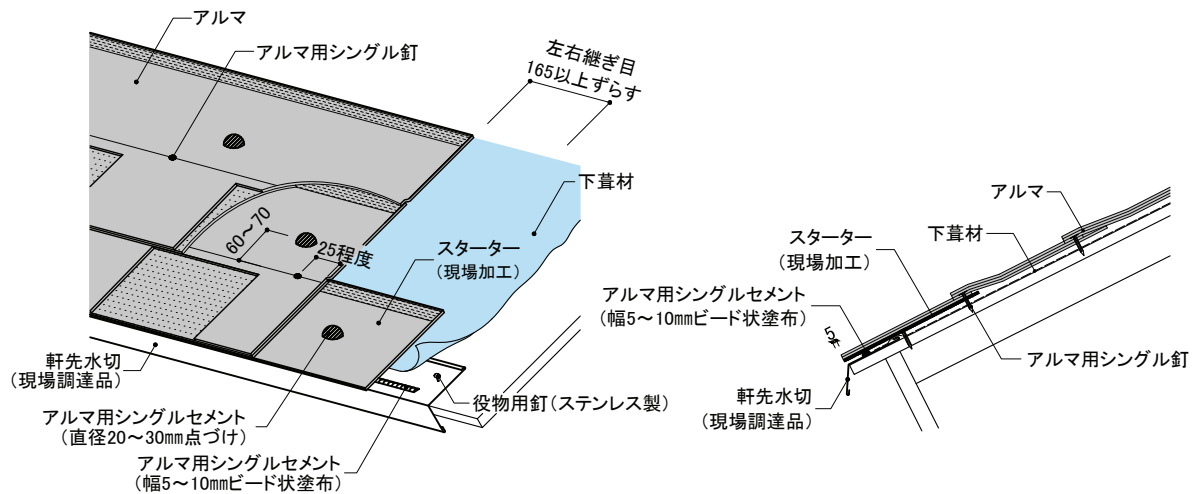


- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。

軒先部・けらば部の施工

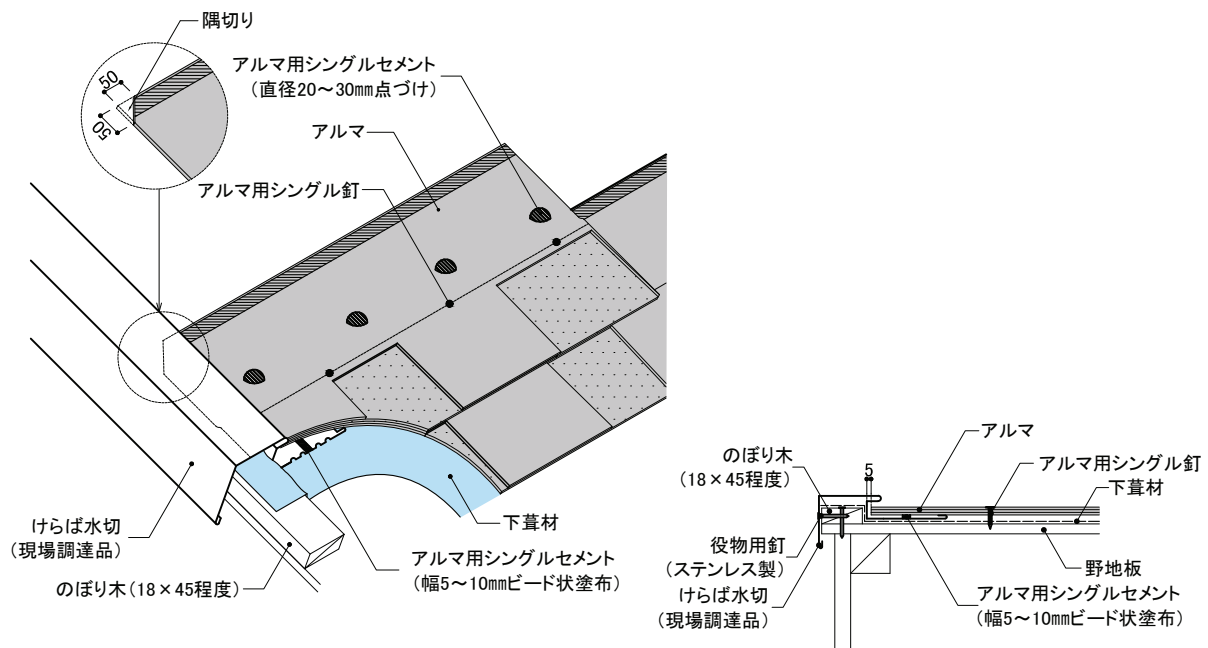
軒先部の施工

- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- アルマ用シングルセメントはアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側（棟側）へ点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は、165mm以上ずらして施工します。



けらば部の施工

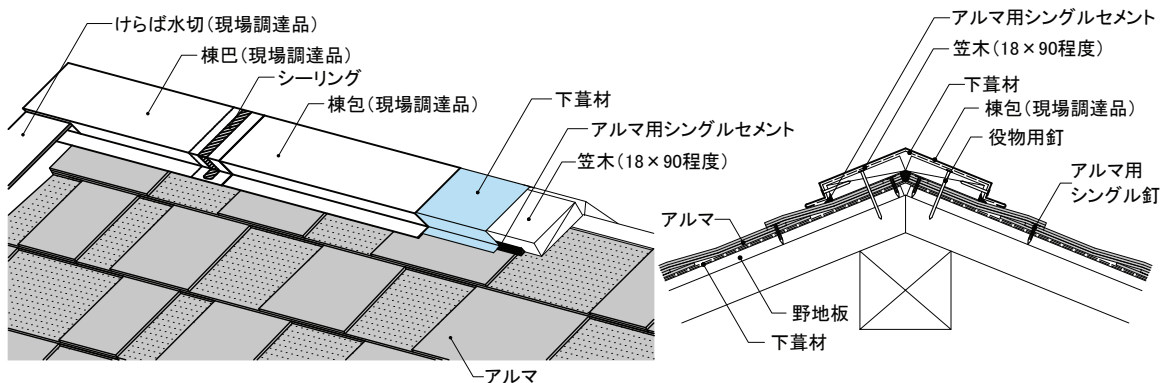
- けらば水切にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- けらば水切とアルマは、5mm程度の隙間を設けて施工します。
- けらば部のアルマは、幅50mm程度隔切りします。
- アルマ本体留め付けの際、シングル釘がけらば水切を貫通しないように留意してください。



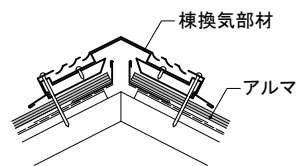
大棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

大棟部の施工(板金仕様)

- 最上段のアルマ本体は葺き足長さを短く調整するなどして葺き、釘頭があらわしにならないように施工します。
- 笠木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。
- 笠木に下葦材をかぶせ、棟包を施工します。
- 棟包と棟木の重ね部にはシーリングを施工します。

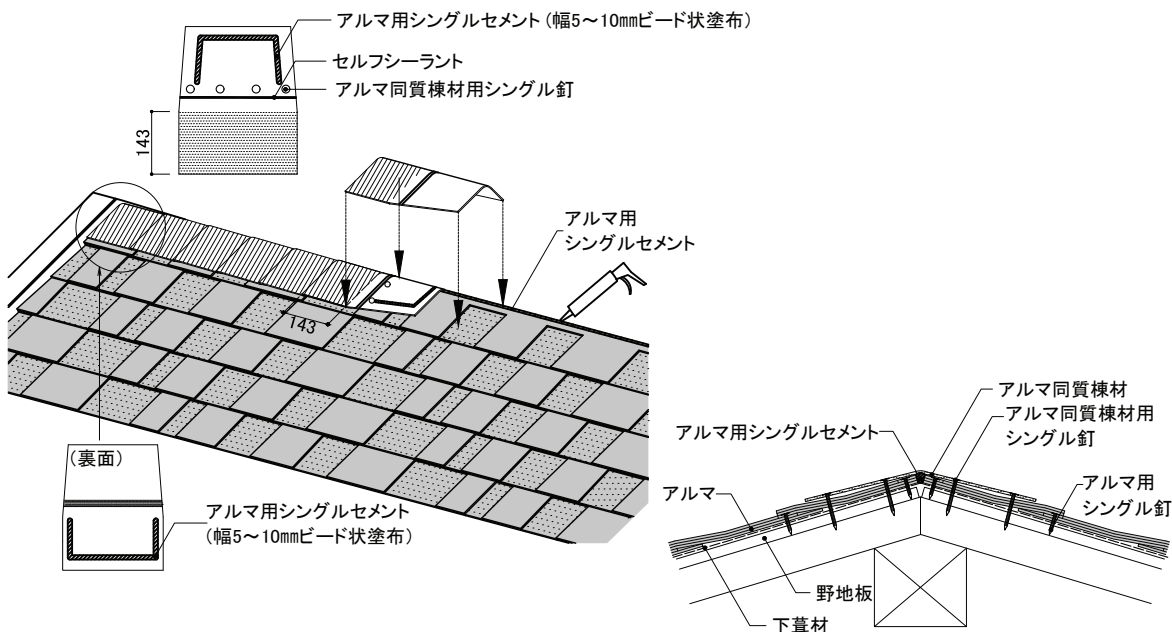


注意 アルマの施工では小屋裏換気を標準としております。棟換気を採用する際は、必要に応じた換気棟セットを取り付けてください。なお、換気棟セットにつきましては、株式会社ヨネキンのシングル用棟換気部材を推奨いたします。



大棟部の施工(同質棟材仕様)

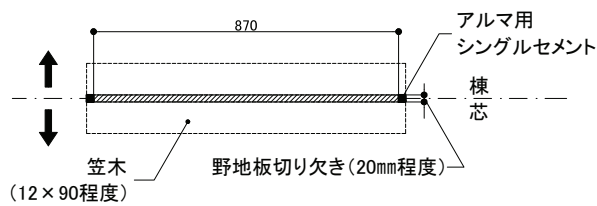
- 同質棟材1枚につき、アルマ同質棟材用シングル釘(φ3mm×43mm)4本で施工します。
- 棟芯に沿って折り曲げる際、同質棟本体の割れを防ぐため、日なたなどで温めてから施工します。
- 同質棟材施工の前に、棟芯にシングルセメントを塗布します。
- 同質棟材の重なり部分には、下図のようにシングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- 1段目の同質棟材裏面に、シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。



大棟部の施工(同質棟材用換気部材)

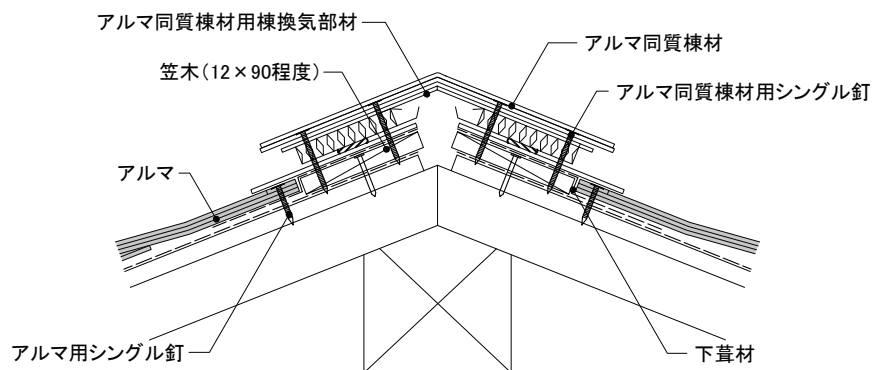
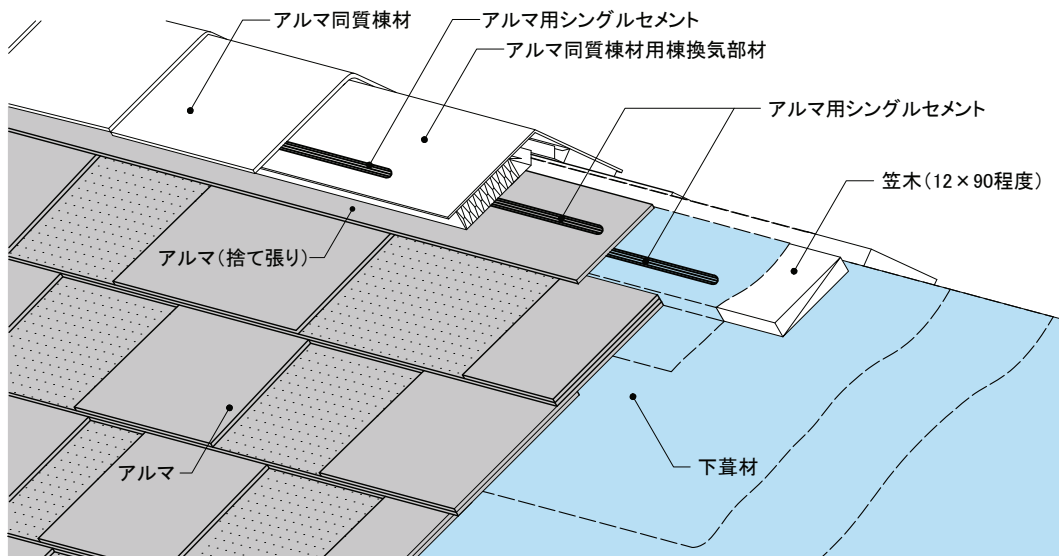
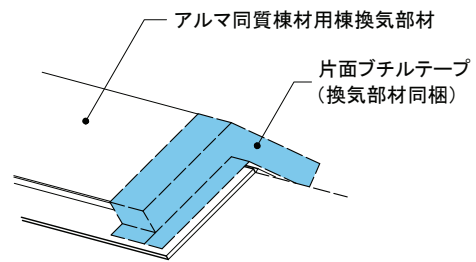
- 棟換気部材取り付け部の野地板を、幅20mm程度切り欠きます。
- 切妻屋根の場合は、開口位置をけらばより300mm以上離れた位置から設けます。
- 笠木に下葺材をかぶせて施工し、その上にアルマを捨て張りします。
- アルマ同質棟材用棟換気部材端部は、同梱の片面プチルテープを隙間のないように貼り付けます。
- アルマ同質棟材用棟換気部材は角部4ヶ所を仮留めし、アルマ同質棟材を施工して固定します。

■野地板の切り欠き



笠木端部には止水のため、アルマ用シングルセメントを隙間のないように施工します。

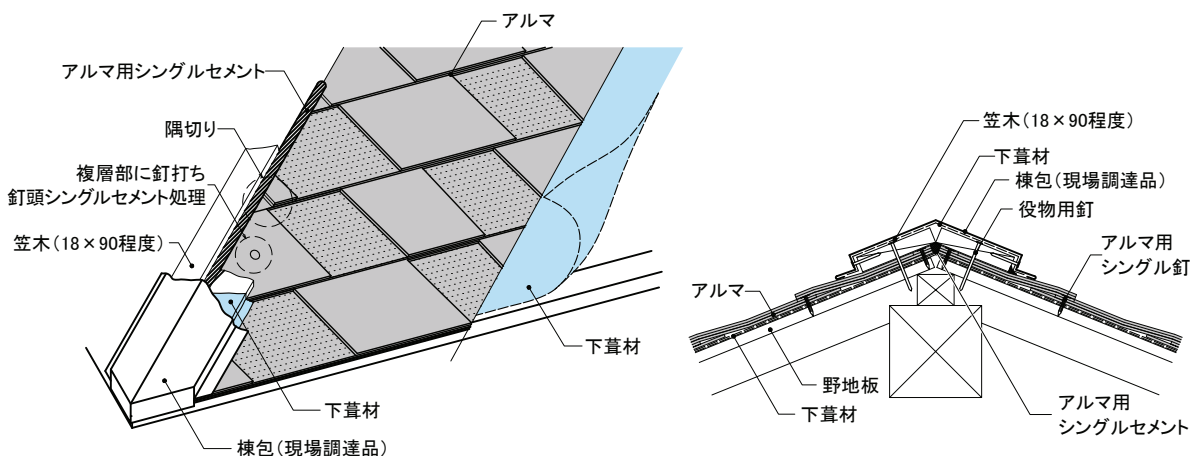
■棟換気部材端部



隅棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

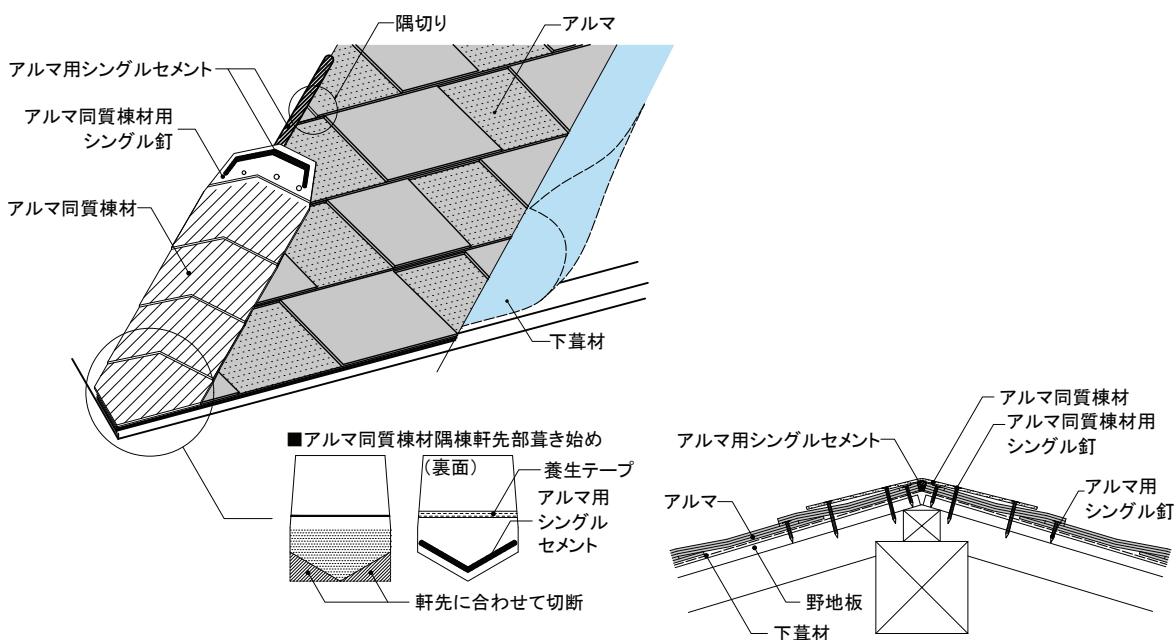
隅棟部の施工(板金仕様)

- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体複層部分の棟包で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。



隅棟部の施工(同質棟材仕様)

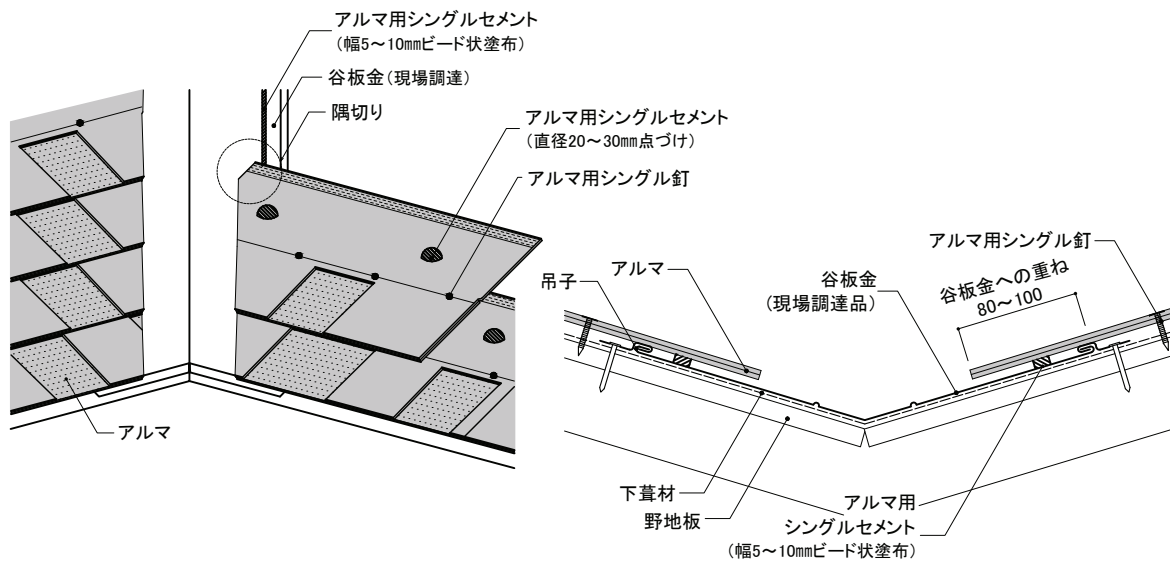
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体の複層部分で同質棟材で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。
- 軒先スタート部は軒先角度に合わせて切断して裏面にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、葺き始めます。



谷部の施工(板金仕様)・壁際部の施工

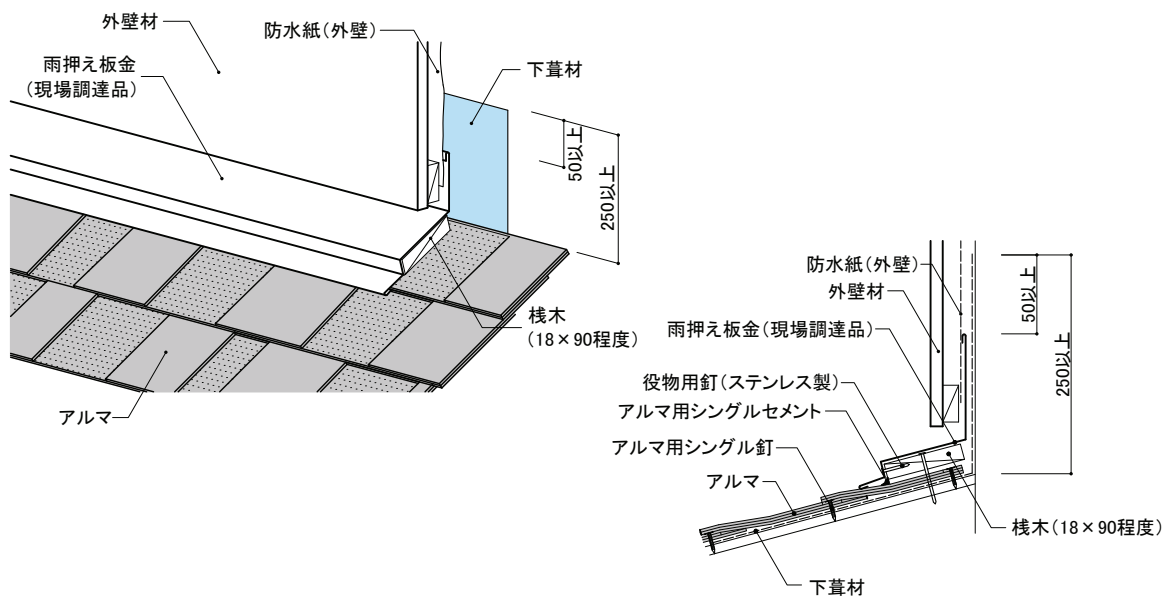
谷部の施工(板金仕様)

- 谷板金は直接釘で留め付けず、必ず吊子で取り付けます。
- アルマを谷板金に80～100mm重ねて施工します。
- 谷部に掛かるアルマの上部角は50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、釘が谷板金を貫通しないように留意してください。
- 谷板金にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、アルマ本体と接着します。



壁際部の施工

- アルマを施工後、棧木(18×90mm程度)、雨押え板金を設置します。
- 棧木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。
- 下葺材を屋根面より250mm以上かつ、雨押え板金上端より50mm以上立ち上げます。



施工前の確認事項

重要 必ずご確認ください！

既存屋根材がセメント系新生瓦の場合、石綿(アスベスト)を含有しているかどうかをご確認ください。
石綿(アスベスト)が含まれている屋根材の場合、専用の施工方法にて下葺材の施工を行ってください。
既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

▽既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含む場合

⇒「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」による下葺材の施工

〔適用下葺材〕 アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング
(片面粘着層のないものに限る)

▽既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含まない場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング
または「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

▽既存屋根材がアスファルトシングルの場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

※片面粘着層付下葺材を施工する際、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング
または「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

設計施工基準

- 建物の高さは16m以下とします。
- 既存垂木間隔が500mm以下であることを確認してください。
- 既存屋根材(セメント系新生瓦、アスファルトシングル)の厚みは6mm以下とします。
- 既存野地板は厚みが12mm以上の普通合板同等以上の木製野地板とします。
- 屋根勾配は3.5寸以上、27.5寸(約70度)以下とします。
緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は専用の施工仕様に従ってください。
- 流れ長さは20m以下とします。
緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は、流れ長さ10m以下とします。
- 多雪地域(垂直積雪量がおよそ80cmを超える地域)においては、勾配は3.5寸以上(27.5寸以下)とし、下表の多雪地域専用の施工仕様に従ってください。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では専用の施工方法(1枚あたり6本留め)にて行います。
- 小屋裏結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

		勾配	緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10 以上
			2.5/10	3.0/10					
一般地域	最大流れ長さ		10m以下		20m以下				
	既存屋根	石綿なし	重ね葺き仕様						
		石綿あり	『あんしん』屋根カバー工法(緩勾配)	『あんしん』屋根カバー工法(一般)					
多雪地域	最大流れ長さ				10m以下	15m以下	20m以下		
	既存屋根	石綿なし	施工不可						
		石綿あり				『あんしん』屋根カバー工法(多雪)		『あんしん』屋根カバー工法(一般)	

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P33~36)をご参照ください。

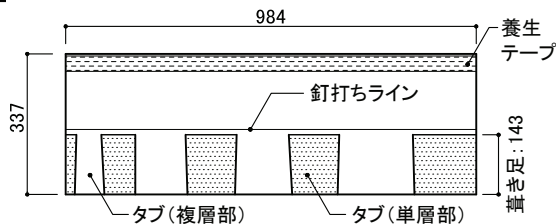
事前調査

- 既存状態で漏水がある場合は、どこから漏水しているか水の浸入箇所を突き止め、確実な防水処理を行ってください。
- 既存屋根の実測を行い、勾配、流れ長さなどが「設計施工基準」に適合することをご確認ください。
- 既存屋根材の状態をご確認ください。脱落などがある場合は段差を埋めるなど適切な処置を行ってから施工してください。
- 片面粘着層付き下葺材を使用する場合、粘着層の接着確保のため、既存屋根面の塵埃、苔を落としてから下葺材を施工してください。
- 太陽光発電パネル、温水器など既存屋根上に設置物がある場合は、必ず専門工事業者に配線、脱着工事などを相談してください。

製品仕様

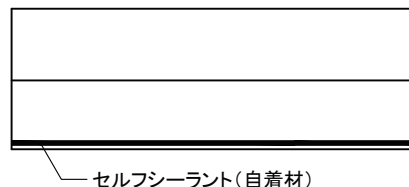
■アルマ本体

アルマ本体(オモテ面)



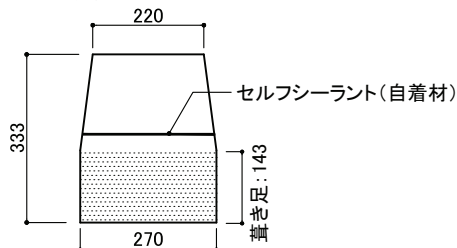
品番	SA30□ (□内は色番号)
寸法 (厚み×幅×長さ)	6mm×337mm×984mm (単層部 厚み3mm)
葺き足	143mm

アルマ本体(ウラ面)



㎡あたり葺き枚数	約7枚
梱包	16枚/梱
重量	約1.7kg/枚
梱包重量	約27kg

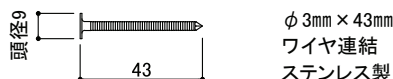
■アルマ同質棟材



品番	SAH21□ (□内は色番号)
寸法(厚み×幅×長さ)	3mm×270mm×333mm
葺き足	143mm
梱包	30枚/梱
梱包あたり施工長さ	約4.3m

注)アルマ同質棟材の対応勾配は10寸(45度)以下です。

■アルマ重ね葺き用連結釘(アルマ本体 機械打ち施工用)



品番	SAR110
梱包	30巻/梱(120本/巻)
巻あたり施工枚数	約30枚(一般地域施工)
梱包あたり施工枚数	約900枚(一般地域施工)

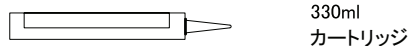
注)隅棟にはご使用いただけません。

注)連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。

推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

アルマ同質棟材用シングル釘(品番:SAK110)を使用した手打ち施工も可能です。

■アルマ用シングルセメント



品番	SAC1500
梱包	10本/梱
本あたり施工面積	約6㎡(葺き面積)
梱包あたり施工面積	約60㎡(葺き面積)

注)アルマ用シングルセメントはアルマ施工の際には必ず使用します。

アルマ本体施工に際して、直径20~30mmの点づけ、使用部分により幅5~10mmのビード状で塗布します。

シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますのでご注意ください。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含まない場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。
 ※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

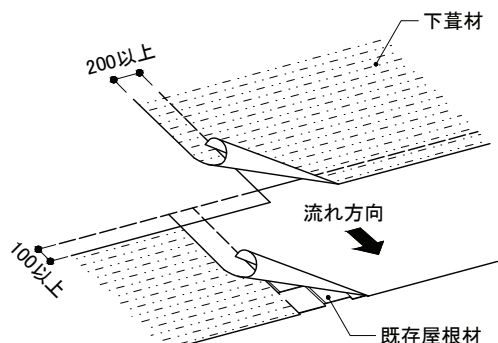
重ね葺き仕様(既存屋根が石綿を含まない場合)

●本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿を含まないセメント系新生瓦、アスファルトシングルの際に適用されます。

【使用する下葺材】

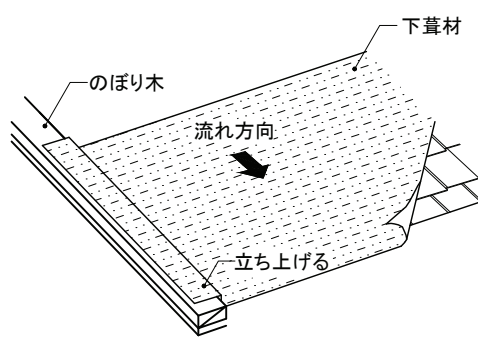
片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング:厚1.0mm以上

一般部



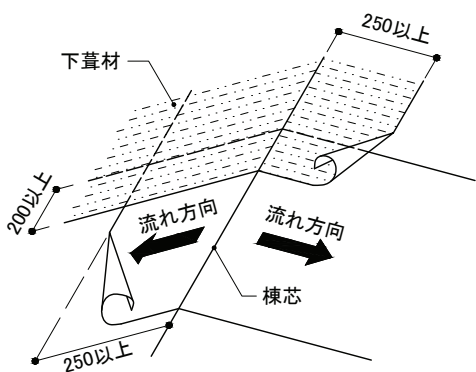
●重ねしろは、上下100mm以上、左右200mm以上とします。

軒先・けらば部



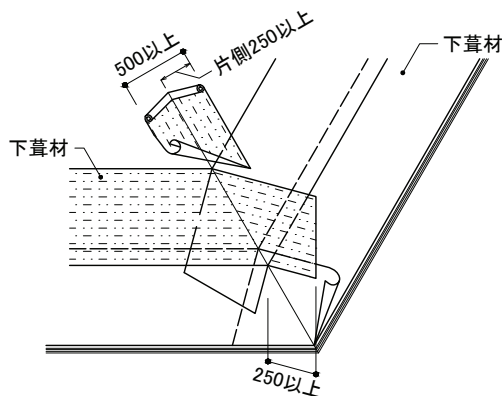
●既存けらば水切の上ののぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。

大棟部



●大棟部は、片側250mm以上(計500mm以上)重ねます。

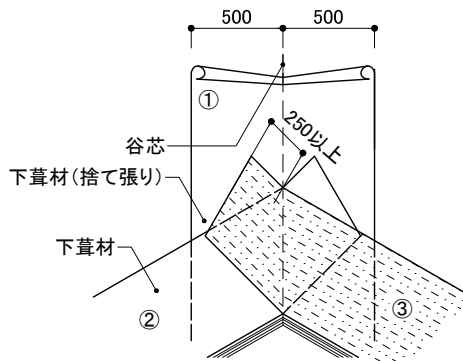
隅棟部



●隅棟部は、屋根面より250mm以上延長して下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。

谷部

- 谷部は、
 ①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、
 ②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。
 (図中の○数字は、施工の順番を表しています。)



※既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

下葦材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

※下葦材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(一般)(既存屋根が石綿を含む場合)

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法は、石綿(アスベスト)を含んだセメント系新生瓦の上に重ね葺き工法により屋根材を施工する際、片面粘着層の付いていない下葦材を使用することで、将来的な建物解体時の廃棄物(石綿含有建材)分離処分をしやすいものです。下葦材の固定には「あんしん壁倍率5.0用めっき鋼板」を使用し、重ね葺き専用釘で留め付けます。

・下葦材留め付け補助部材

商品名	品番	サイズ
あんしん壁倍率5.0 めっき鋼板	FA4000	0.35×30×855mm

・下葦材固定用釘

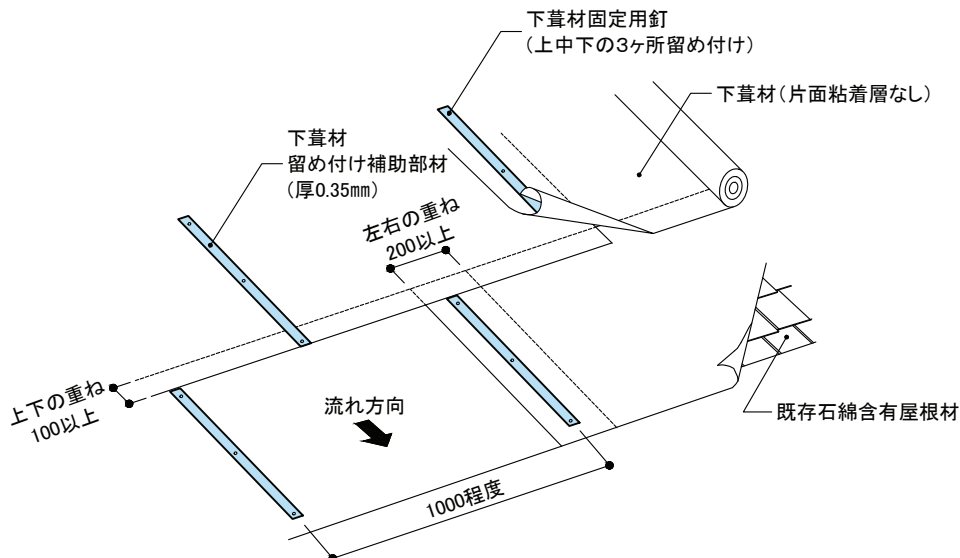
商品名	品番	サイズ
アルマ重ね葺き用連結釘	SAR110	φ3mm×43mm

※連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

■下葦材の施工方法(勾配3.5寸以上の場合)

- 下葦材留め付け補助部材は流れ方向に平行に留め付けます。
- 既存屋根材の上の下葦材を敷きながら1000mm前後の間隔で下葦材留め付け補助部材を施工します。
- 下葦材留め付け補助部材には、上中下の3ヶ所を下葦材固定用釘にて留め付けます。
- 下葦材の左右重ね部分には必ず下葦材留め付け補助部材を設置し、固定します。
- 施工する地域の風の強さ、下葦材施工後の新規屋根施工までの間隔を考慮し、必要に応じて下葦材留め付け補助部材の数を増やすなど調整してください。

一般部



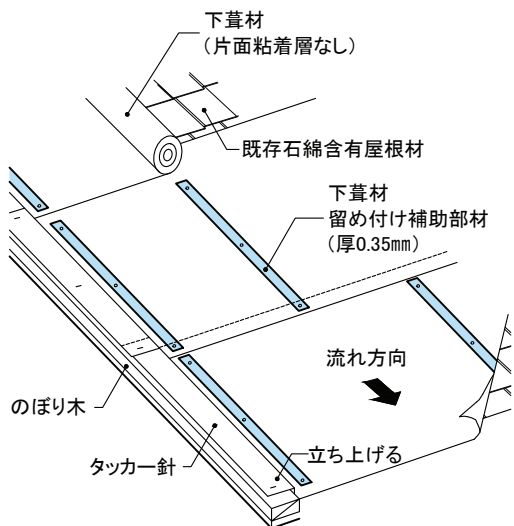
●重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。
 ※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

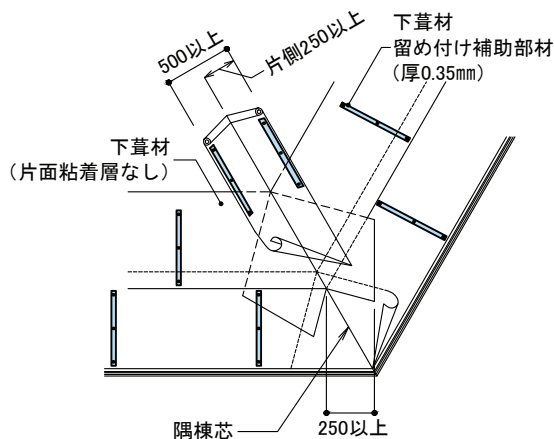
ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(一般)(既存屋根が石綿を含む場合)

けらば部



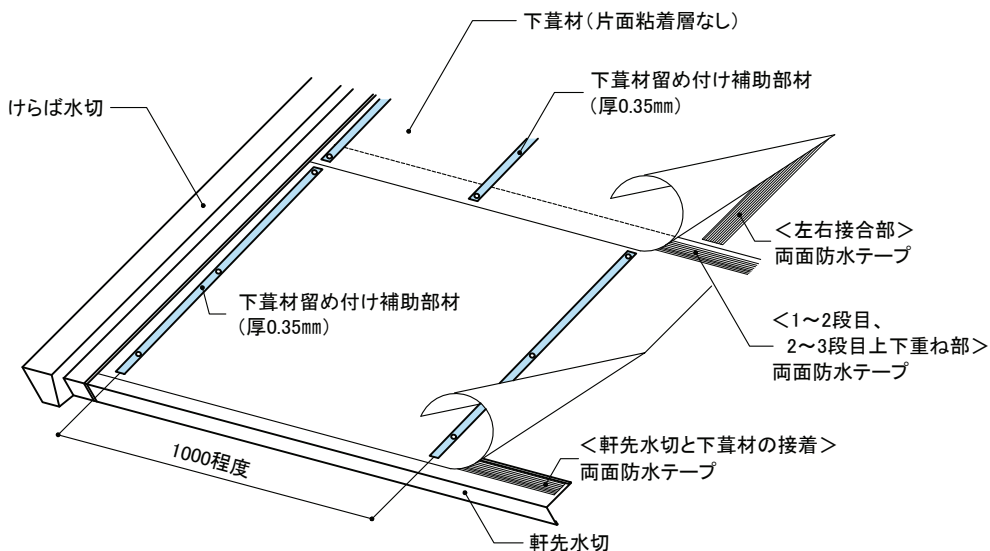
- けらば端部は全段の下葺材を下葺材留め付け補助部材で固定します。
- のぼり木に対してはタッカー針で固定します。

隅棟部



- 隅棟部に重ねる下葺材端部に隅棟芯に沿って下葺材留め付け補助部材にて固定します。

緩勾配仕様(2.5寸以上3.5寸未満)



- 緩勾配屋根の場合は軒先水切と下葺材の間に両面防水テープを貼り付け、下葺材を固定します。
- 下葺材1~2段目上下重ね部、2~3段目上下重ね部にも同様に、両面防水テープにて下葺材どうしを接着します。
- 下葺材3段目までは、下葺材の左右重ね部も両面防水テープにて接着します。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

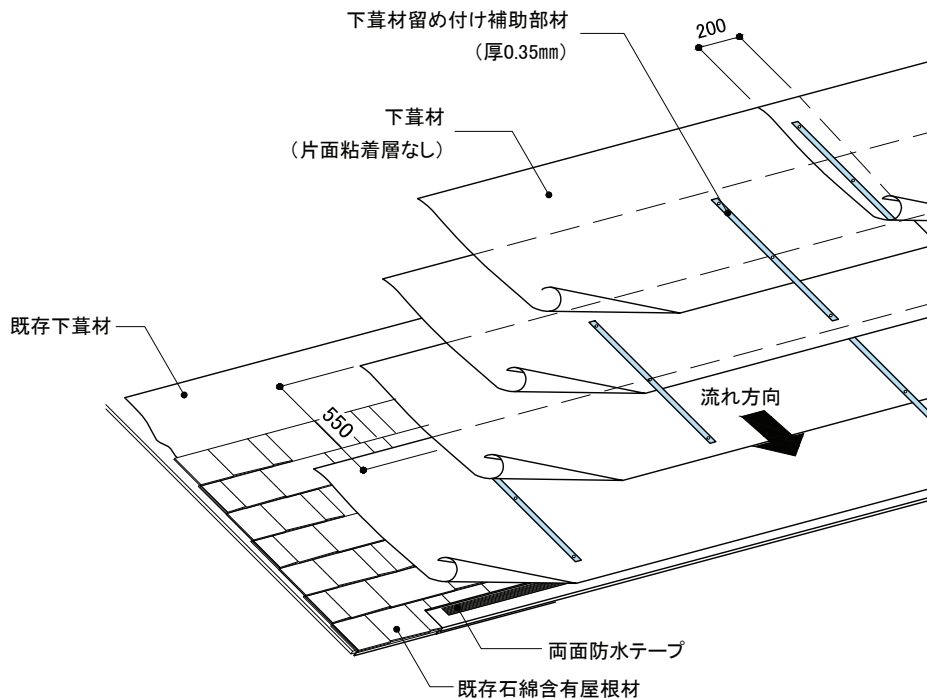
※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(多雪)(既存屋根が石綿を含む場合)

- 本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿(アスベスト)を含むセメント系新生瓦への重ね葺き工法で、「積雪A地域」における「屋根勾配3.5寸以上5.0寸未満」の屋根に適用されます。
- 「積雪A地域」においては、板金役物の接合部には必ずシーリング処理を行います。
 また、谷、けらばなど板金役物とアルマとの取り合い部にはシングルセメントを捨て打ちします。

【使用する下葺材】

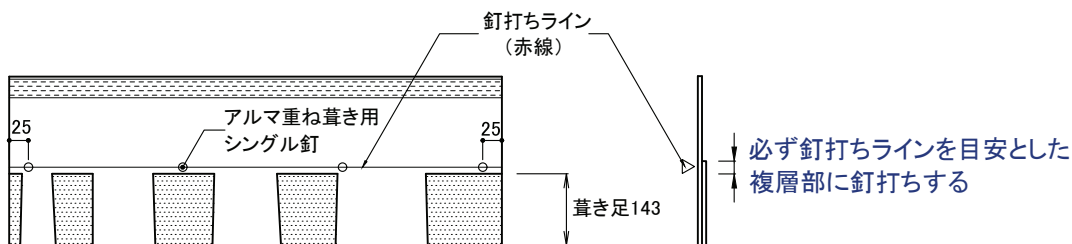
アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上



- 重ねしろは、上下550mm程度、左右200mm以上としてください。
- 左右重ね部分は上下段で2000mm以上ずらしてください。

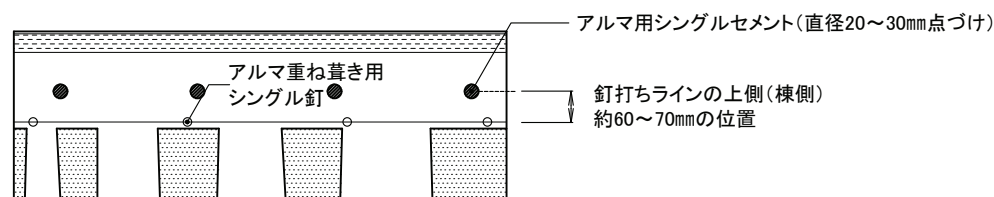
本体施工のポイント

アルマ本体の釘打ち



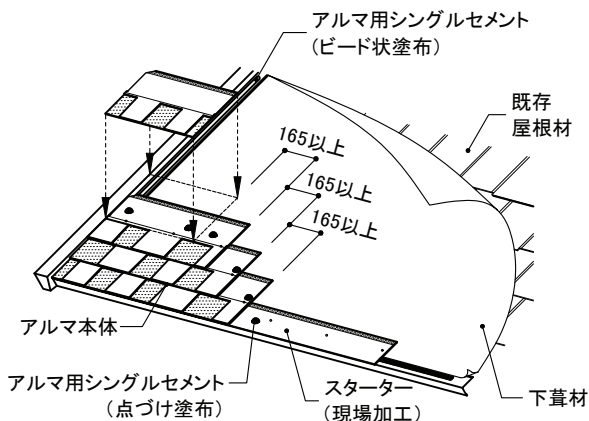
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

アルマ用シングルセメントの塗布

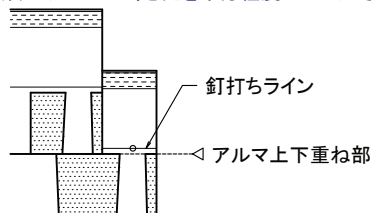


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置にアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大ききで点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでピード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

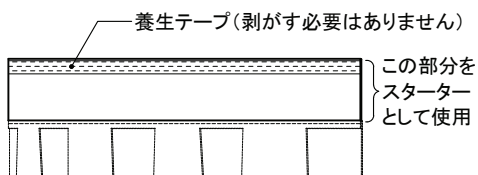
アルマ本体の施工



- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。
※複層シングルへ重ね葺きする場合のみ、段差解消のため、葺き始め2段目のアルマの葺き足を半分程度としてください。



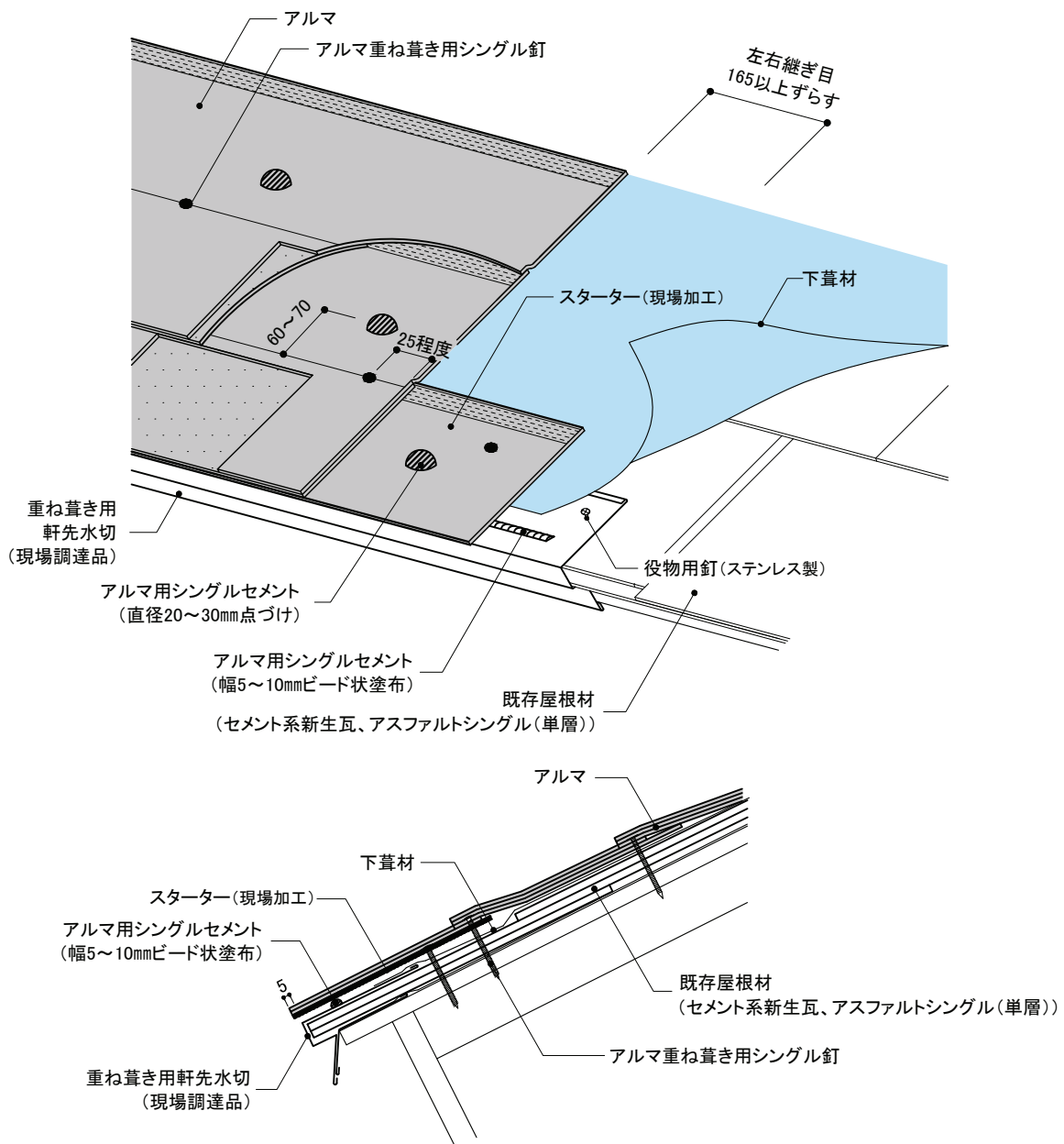
スターターの加工



- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。

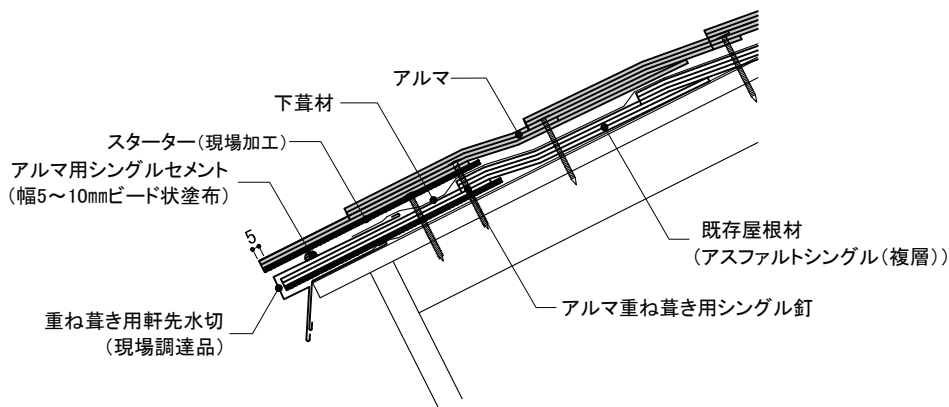
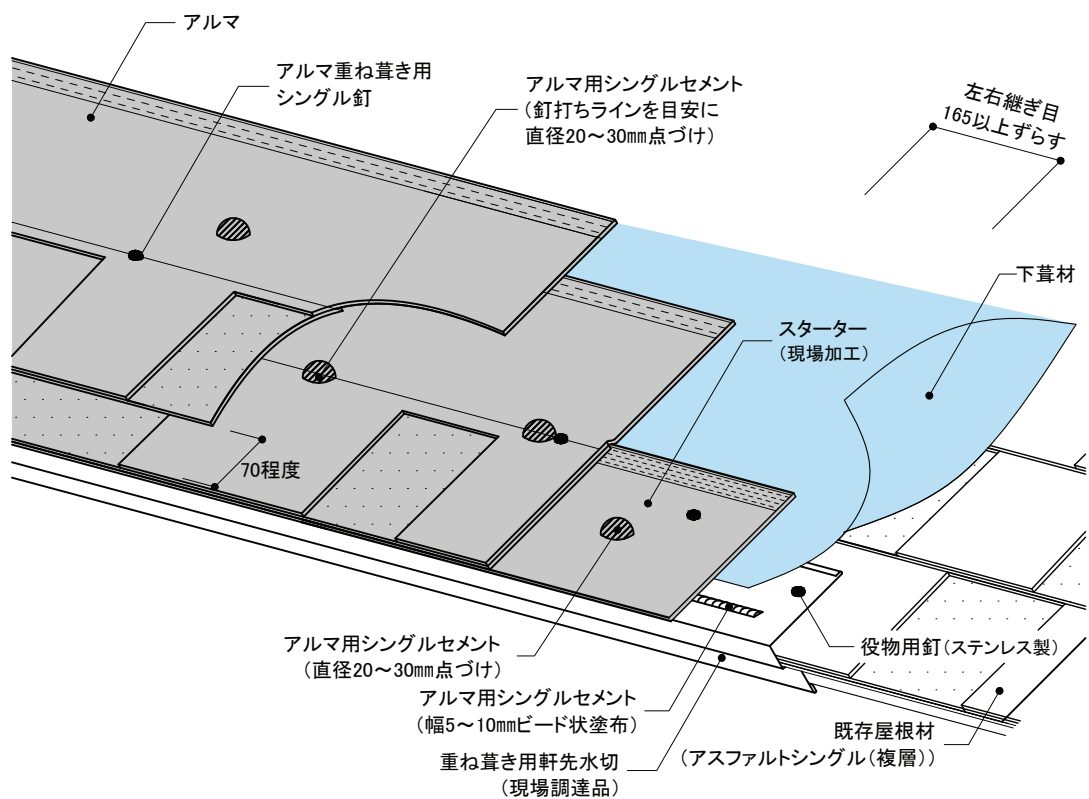
軒先部の施工(既存屋根:セメント系新生瓦、アスファルトシングル(単層))

- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大ききで点づけします。
- アルマ用シングルセメントはアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は165mm以上ずらして施工します。



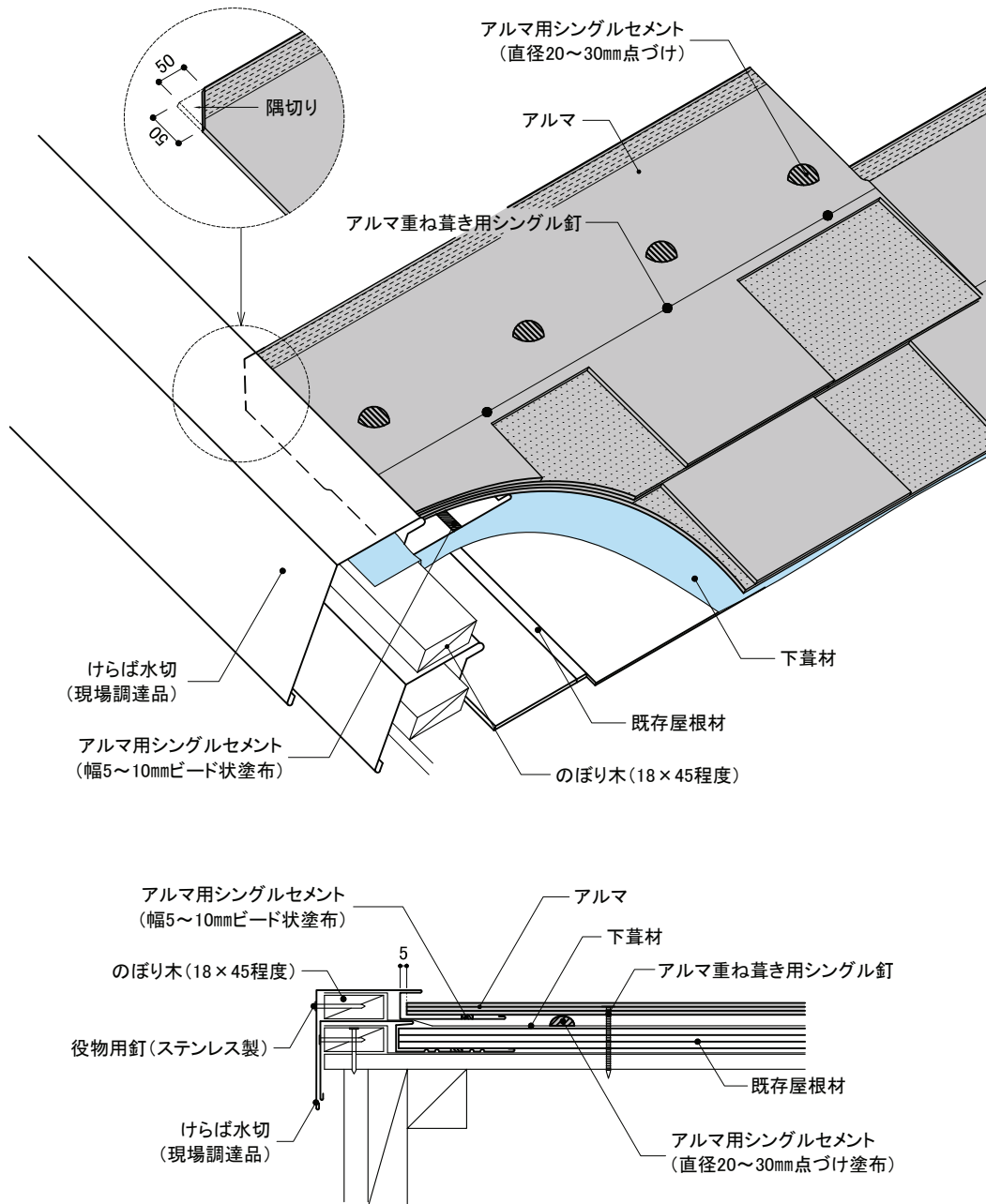
軒先部の施工(既存屋根:アスファルトシングル(複層))

- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は165mm以上ずらして施工します。
- 1段目のアルマの釘打ちラインを目安に、アルマ用シングルセメントを本体定尺品1枚につき4ヶ所程度点付けします。
- 2段目のアルマは1段目のアルマの軒先側先端より70mmの位置に施工します。
- 2段目以降は、アルマ用シングルセメントをアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点つけします。



けらば部の施工

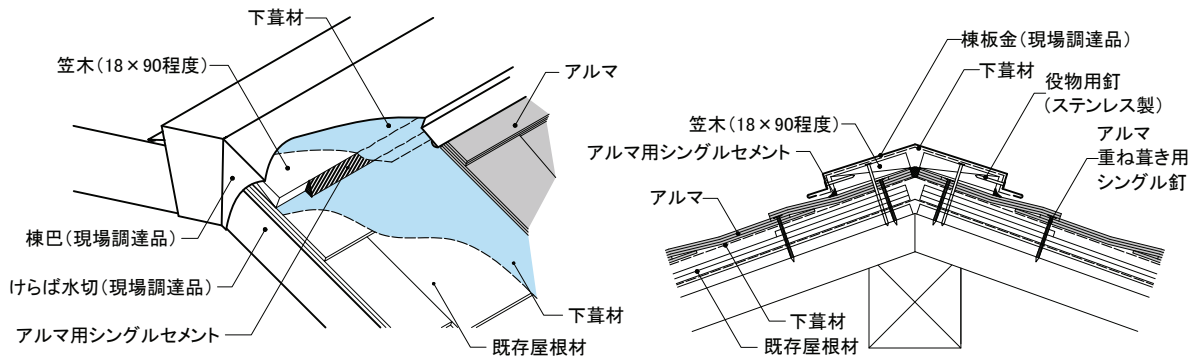
- けらば水切にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- けらば水切とアルマは、5mm程度の隙間を設けて施工します。
- けらば部のアルマは、幅50mm程度隔切りします。
- アルマ本体留め付けの際、シングル釘がけらば水切を貫通しないように留意してください。



大棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

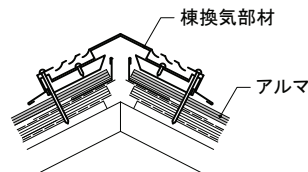
大棟部の施工(板金仕様)

- 最上段のアルマ本体は葺き足長さを短く調整するなどして葺き、釘頭があらわしにならないように施工します。
- 笠木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。



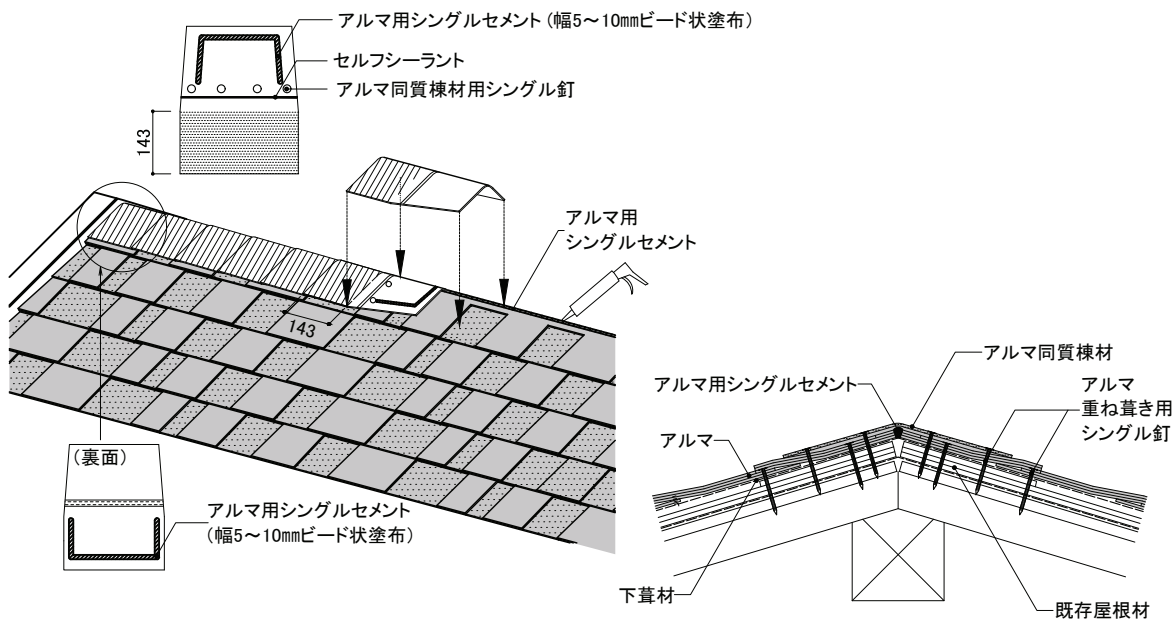
注意

アルマの施工では小屋裏換気を標準としております。棟換気を採用する際は、必要に応じた換気棟セットを取り付けてください。なお、換気棟セットにつきましては、株式会社ヨネキンのシングル用棟換気部材を推奨いたします。



大棟部の施工(同質棟材仕様)

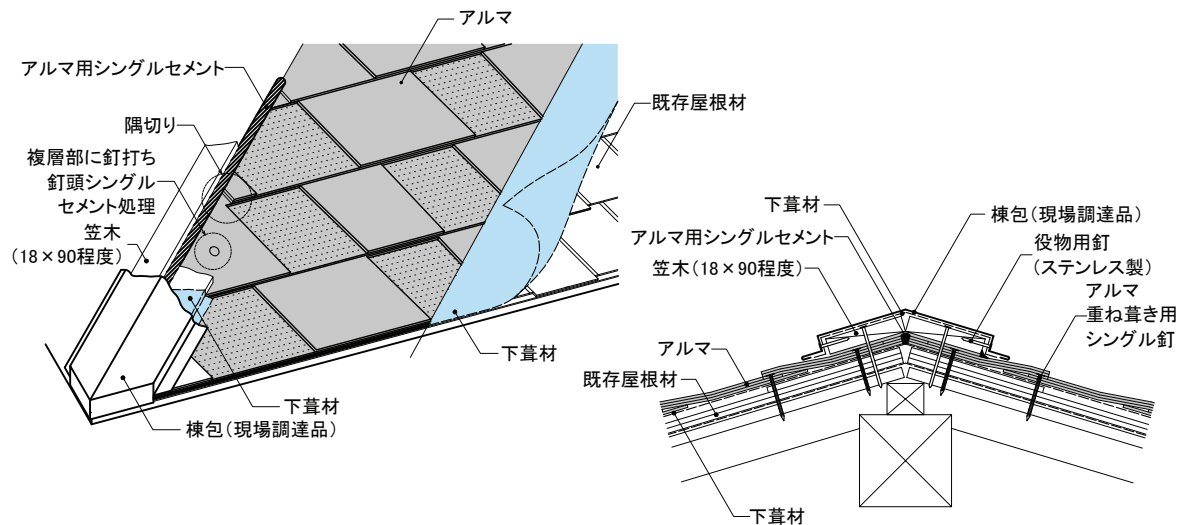
- 同質棟材1枚につき、アルマ同質棟材用シングル釘(φ3mm×43mm)4本で施工します。
- 棟芯に沿って折り曲げる際、同質棟本体の割れを防ぐため、日なたなどで温めてから施工します。
- 同質棟材施工の前に、棟芯にシングルセメントを塗布します。
- 同質棟材の重なり部分には下図のようにシングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- 1段目の同質棟材は裏面にシングルセメントを幅5～10mm幅のビード状に塗布します。



隅棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

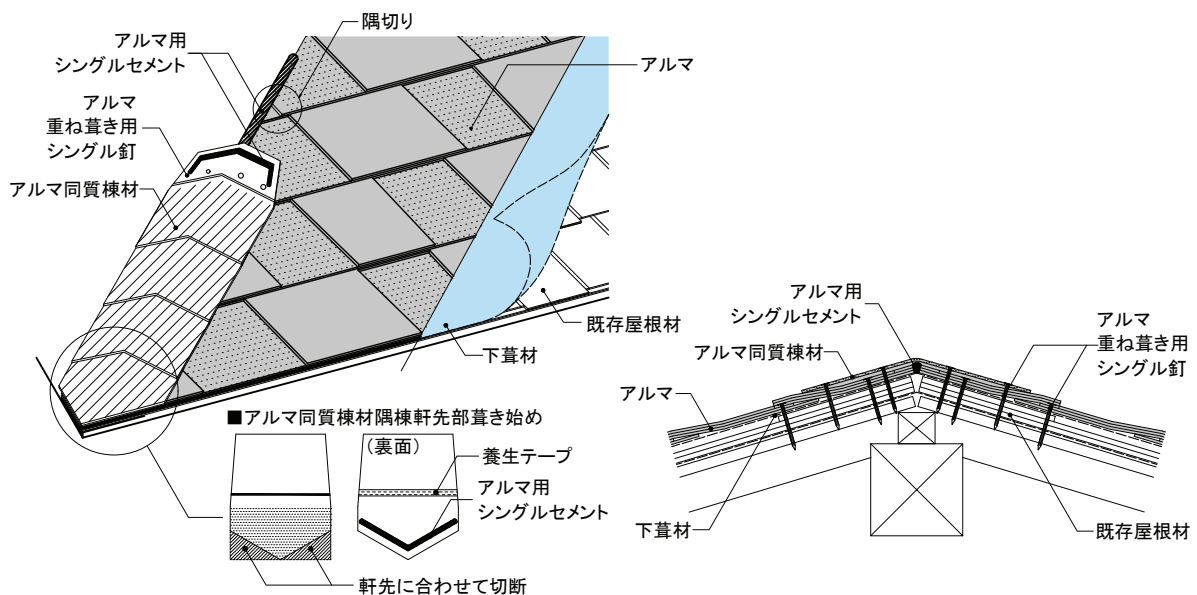
隅棟部の施工(板金仕様)

- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体複層部分の棟包で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。



隅棟部の施工(同質棟材仕様)

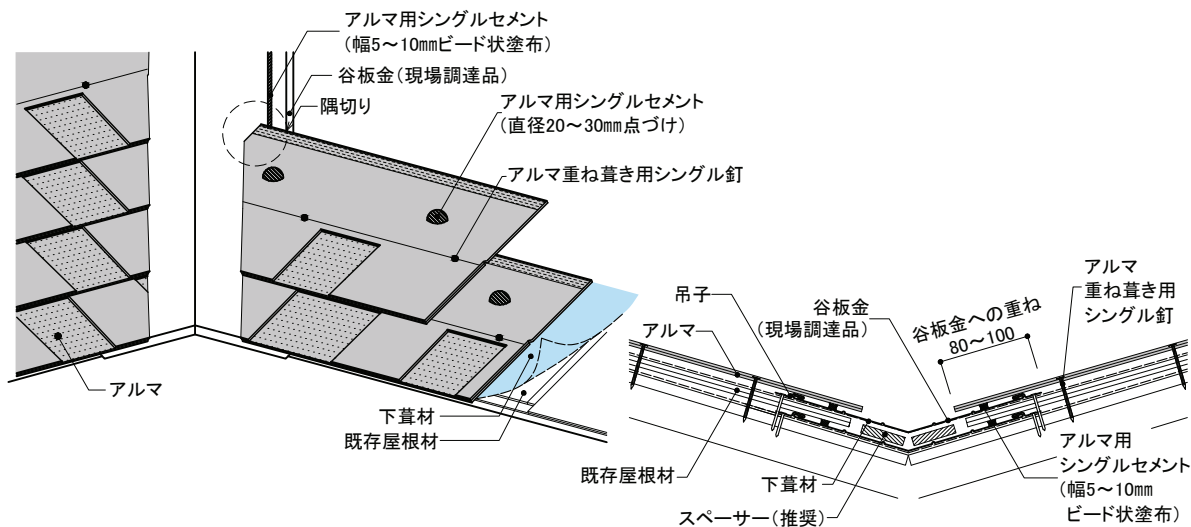
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体の複層部分で同質棟材で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。
- 軒先スタート部は軒先角度に合わせて切断して裏面にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、葺き始めます。



谷部の施工(板金仕様)・壁際部の施工

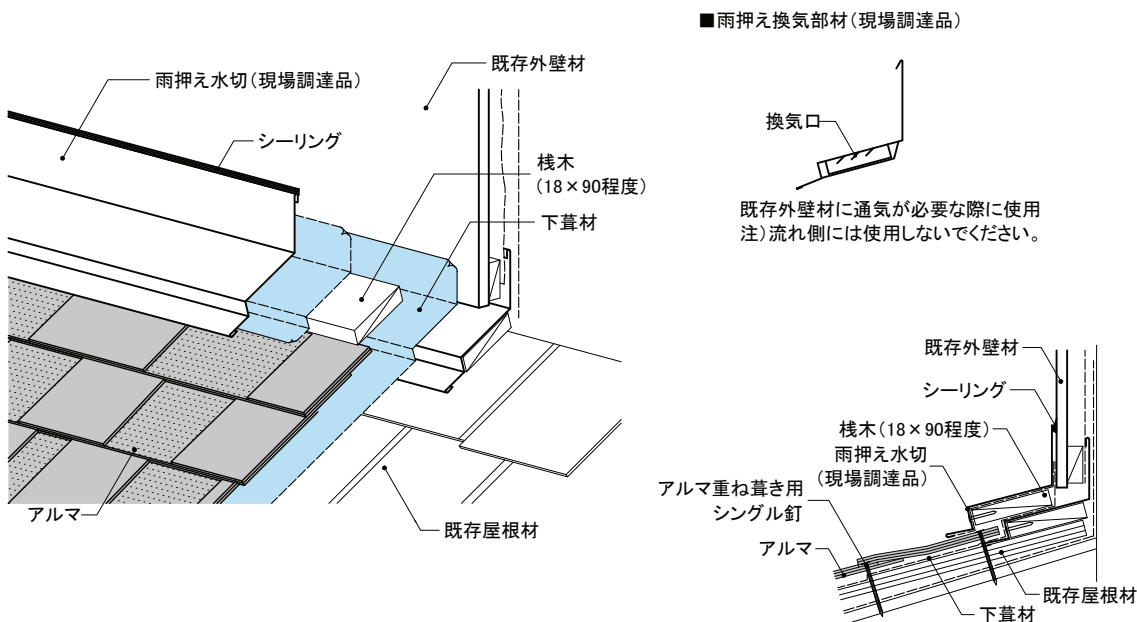
谷部の施工(板金仕様)

- 谷板金は直接釘で留め付けず、必ず吊子で取り付けます。
- アルマを谷板金に80~100mm重ねて施工します。
- 谷部にかかるアルマの上部角は50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、釘が谷板金を貫通しないように留意してください。
- 谷板金にアルマ用シングルセメントを幅5~10mmのビード状に塗布し、アルマ本体と接着します。
- 既存谷板金との段差解消のため、必要に応じて10~15mm厚のスペーサーを挿入します。



壁際部の施工

- 既存雨押え水切の上に栈木を設置し、アルマを施工後、新規に雨押え水切を設置します。
- 栈木を覆うように下葺材を増し張りします。
- 雨押え水切上部にはシーリングを充填し、止水処理を行います。
- 既存外壁材に通気が必要な場合、既存雨押え水切にアルマを差し込んだり、雨押え換気部材を使用するなど、既存外壁材の通気を阻害しない措置を講じてください。



推奨部材 (板金部材)

<p>軒先唐草R 品番 YS-110 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先唐草T 品番 YS-115 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先水切35×55 (120°) 品番 Y-104 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先水切35×65 (120°) 品番 Y-105 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>
<p>ケラバ水切60 品番 Y-202 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>雨押水切70 品番 Y-401 入数 10本/cs 全長 1820mm ハゼ付 Y-401H</p>	<p>雨押水切120 品番 Y-403 入数 10本/cs 全長 1820mm ハゼ付 Y-403H</p>	<p>のし水切 品番 YS-445 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>
<p>捨板水切18 品番 Y-502 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>谷板水切(小) 品番 Y-503 入数 10本/cs 全長 1820mm 1/7 35/65 ハゼ付 Y-535H (関東工場生産)</p>	<p>L型捨板 品番 Y-573 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>棟包24 品番 Y-301 入数 10本/cs 全長 1808mm ハゼ付</p>
<p>棟巴24 品番 Y-601 入数 20本/cs 全長 510mm</p>	<p>隅巴24 品番 Y-610 入数 15本/cs 全長 600mm</p>	<p>片流れ棟80 品番 Y-330 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>壁止まり右(左) 品番 Y-420 (421) 入数 20本/cs 全長</p>

棟換気部材

【施工例】

品番	VTS-200	VTS-100	VTS-050
材質	ス-ハ-GL鋼板 t=0.35		
寸法 (L)	1,980mm	1,090mm	645mm
通気開口面積	338.4cm ² /本	169.2cm ² /本	84.6cm ² /本
基準小屋裏面積	54.1m ² /本	27.1m ² /本	13.5m ² /本

※棟部を棟包板金で納める場合にのみご使用になれます。
※棟包との連結にはY-301をご使用ください。

(推奨メーカー)

株式会社ヨネキン <https://www.yonekin.co.jp>

営業部 大阪府和泉市テクノステージ1-5-7

TEL 0725-51-3030 FAX 0725-51-3040

東京支店 東京都中央区日本橋本石町4-5-12

TEL 03-3517-3131 FAX 03-3517-3132